

CDC 諮問委員会が新型コロナワクチン接種一律での「推奨」終了を全会一致で決定 今後は医療従事者と相談の上での判断を推奨 アメリカ

9/20FNN プライムオンライン



アメリカの CDC=疾病対策センターの接種策センターの諮問委員会は 19 日、新型コロナウイルス「推奨」を終了することを全会一致で決めました。

CDC の諮問委員会は生後 6 カ月以上の人への新型コロナワクチンの接種についての一律の「推奨」を終了することを全会

一致で決めました。

今後は「個人の意思に基づくべき」として患者が医師や看護師など医療従事者と相談した上で判断することを推奨します。

また 65 歳未満の人の接種については、基礎疾患がある場合はワクチンの恩恵を最も受けやすいものの、健康な人はそれよりも低いことを強調するとしています。

コロナ禍以降の方針を大きく転換するもので、ワクチンに懐疑的なケネディ厚生長官の意向を反映した形です。

また、委員会では現在、医師の処方箋がいらない新型コロナワクチンについて州や自治体が「処方箋の発行」を求めるよう勧めるか、議論が行われました。

意見は真っ二つに分かれていましたが、反対派の委員からは「保険に入っておらず、医師にかかれない多くの市民が接種の機会を失う」との懸念が示され、勧告は見送られました。

新型コロナワクチン接種の一律推奨終了、今後は医師と相談を-米当局

9/20(土)TBSCROSSDIG

(ブルームバーグ)：米疾病対策センター (CDC) のワクチン諮問委員会は 19 日、全ての年齢層を対象とした新型コロナワクチン接種の一律推奨を終了することを決議した。ケネディ厚生長官は 6 月、同委員会のメンバーを一斉に解任した後、8 人を任命した。今後接種の判断は個人ではなく、医療従事者との調整に基づいて下されるという。

ワクチンに批判的なケネディ氏が厚生長官に任命されて以来、新型コロナワクチンは議論の的となっていた。

諮問委員会メンバーの一人、レツェフ・レヴィ教授 (マサチューセッツ工科大学オペレーションマネジメント) は「医療提供者と患者の間で話し合っ